

浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No270

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町 1-25
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F
電 話 045 (534) 8708
<http://www.kids-yokohama.or.jp>
編 集 横浜市幼稚園協会広報部
発行者 木元 茂
印刷所 株式会社横濱大氣堂

「こども保険」って何？

公益社団法人横浜市幼稚園協会
会長 木元 茂

安倍内閣は6月9日、経済財政運営と改革の基本方針2017＝「骨太の方針2017」において、人材投資の抜本強化策として「幼児教育の早期無償化」について、財源を早期に確保して段階的に無償化を進めるとの方針を閣議決定しました。全日本私立幼稚園連合会、神奈川県私立幼稚園連合会、横浜市幼稚園協会が数年前から幼児教育無償化を訴え、署名活動を行うなど保護者の皆様にもご協力をいただいたことが、閣議決定という形で一步進んだことはたいへん喜ばしいことです。しかし、残念ながら過去にも時の内閣が閣議決定をしても、実行に移されなかった政策はいくつもあります。そういう意味では一步進んだが、決してゴールテープを切ったわけではないので、引き続き幼児教育の重要性を訴え続け、幼児教育無償化のお願いをし続ける必要はあるのです。

今回も、財源を「早期に確保し」「段階的に」無償化を進めるといふ、条件が付いています。日本で教育に対する公的な財政支出が他の国々に比べて伸び悩んでいるのは、やはり医療・介護・年金といった高齢化に伴う社会保障関係費の増大が大きいということがあげられます。そして、国として教育への投資が少なくなると、「少子化の進行」⇒「労働者の能力の低下」⇒「生産性の低下」⇒「国の成長率の低下」へとつながっていきます。

また、「保護者の収入が低い」⇒「子どもへの教育投資を惜しむ(投資できない)」⇒「子どもの収入が低くなる」⇒『貧困の世代間連鎖』が生じる懸念もあります。

教育を受けることは、生涯賃金が上昇する個人的な利益が大きいことは言うまでもありませんが、公衆衛生の改善、犯罪率の低下、投票率の上昇、貧困の格差の縮小など、外部に対して良い影響を与える点もあり、これが教育に公的資金を投入することを正当化する理由となっています。

現時点では、「こども保険」「教育国債」「消費税率のUP」などが、財源として考えられているようです。

【こども保険】

企業と働く人の社会保険料の率を上げてそこからお金を捻出するという考えです。将来世代に負担を先送りせず、現役世代が負担することが前提になっています。

長寿生活に対応するために年金保険があり、健康のリスク対応のために健康保険があり、高齢者が要介護になった時のために介護保険があります。同じように子どもが必要な保育・教育を受けられないリスクを、社会全体で支えるのが「こども保険」という考え方です。ただ、働いている人と企業にだけ負担が発生するとか、子どもがいない人にとっては賛同できないなど様々な議論もあるようです。

【教育国債】

すでに現時点で生まれた時から子ども1人あたり670万円弱の国の借金を背負っているにも関わらず、さらに「教育国債」として自分たちのための借金も一生背負っていくことになる、高齢者と若年層の世代間の公平性を欠くとも言われています。

【消費税率のUP】

もともとは、教育・保育を含む社会保障の充実のために、5%の消費税を10%にUPする予定だったのが、経済状況などを鑑み8%で留まっているのが現状です。消費税率をあげることができるならこのような状況にはなっていないと考えられますが、度重なる増税延期の現実を見る限りは、消費税率のUPについて皆様方はどのようにお考えになるのでしょうか？

これらの財源についての議論以外にも、「一律」の無償化で良いのかという議論があります。所得に応じた「段階的」な給付という考えです。これも、限りある財源の中で実施しようとする、恩恵を受ける人、受けられない人が出るなど悩ましいこともあります。

また、無償化が教育を受ける側に対する分配政策とすると、一方の教育の担い手である幼稚園・保育園などの施設側の教育の質を、どのように高めていくかという視点も重要と言われています。待機児対策で箱モノだけ作り続けても、中の保育の質が低下しないようにするにはどうしたら良いかということも考える必要があります。

教育は国の考え方や財源など、政治とたいへん密接なつながりがあります。「誰かが考えてくれる」ことではなく、保護者の皆様と、我々教育・保育に携わる全ての園長・教職員が真剣に向き合っていないといけないことなのです。

日本経済新聞の慶応義塾大学中室牧子准教授のコラムを参照しています。

メディア・デトックスに挑戦！

横浜市幼稚園協会 子育て教育相談室相談員 鈴木 由美子

もうすぐ夏休みですね

楽しいご予定もたくさんあると思います。普段できないことができるのが夏休み。

この夏メディアデトックスにチャレンジしてみませんか？

メディアデトックス？

なんでしょう？

テレビや、デジタルメディアに接するのを少し休んでみましょう、という提案です。生まれたときから身近にあるので、何が毒なの？と思われるかもしれませんね。ゲームや、動画なしには、子どもは退屈して、時間が過ぎせないと思われるかもしれません。そこなのです。

本来、人とのかかわって遊んだり、自分の頭で工夫して作ったり、興味を持ったことに没頭したりという過ごし方をする中で、子どもの脳は鍛えられてきました。

その時間を実は、動画、ゲームが奪っているのではないのでしょうか。

食卓を囲みながら、あれこれ会話することで、言葉の力や家族の絆も育まれてきました。テレビがついていると、その時間も奪われているかもしれません。

面白いチャレンジが雑誌に載っていました。(注1) 子どものいるご家庭が、2週間、テレビやその他の動画を見ないで過ごしてみようというのです。「動画を見ないゲームをしよう」と子どもに持ちかけて始めたそうです。終わった後の感想が、「テレビ見ないとほかのことができるんだね」という子ども、「テレビが無いおかげで久しぶりにぼーっとできた」とお母さんの声、などさまざまでしたが、どのご家庭も、子どもとの会話が増えたことは確かなようです。また、子どもがすっきり起きるようになったという声もありました。ゲーム等は脳を疲労させ、子どもの体調を崩すという小児科医の警告(注2)も考えあわせると、メディアデトックスで、子どもの脳の疲れも取れてきたのかな、とも想像されます。

2週間は無理でも、夏休みのイベントとして一日だけでもチャレンジしてみませんか？ TV、デジタ

ルメディアは見ない約束にしてその時間を家族一緒に楽しめる何かをするのはどうでしょう。一緒にスポーツを楽しんだり、ご飯を作ったり、ランプやボードゲームのような、人と一緒に遊ぶゲーム、普段できない大きな工作などをして一日過ごしてみませんか。親子が一緒に楽しむことは、子どもの心を育てるととても大切な時間になると思います。

子どもの脳の健やかな育ちのためにも、生の体験をしっかりとらせてあげたいものだと思います。

(注1) かぞくのじかん Vol.40

(注2) メディアにむしばまれる子どもたち
—小児科医からのメッセージ—田澤雄作

子育て教育相談室

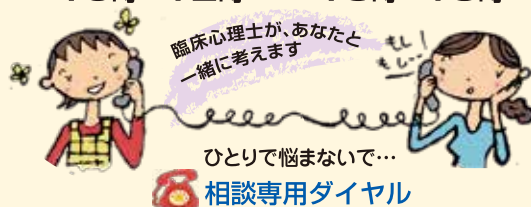
【相談日】

毎週火曜日・金曜日（年末年始、祝祭日を除く）

【受付時間】

10時～12時

13時～15時



045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会

<http://www.kids-yokohama.or.jp>

TEL 045-534-8708

子育てに悩みはつきものですね。子どもがいう事を聞かない、今の子どもの姿が、年齢相当なのか不安になったり、お友達関係がうまくいかなかったり、兄弟げんかが絶えなかったり、数え上げればきりがありませんね。

そんな時、ちょっと誰かにはなせると、気持ちすがすっきりしたりしませんか？

横浜市幼稚園協会では、母親でもある臨床心理士が電話でご相談をお受けしています。

子育てのこと、発達のこと、育児のイライラ、など、どうぞお気軽にお電話ください。

やる気・元気・本気！！

5月10日(水) 横浜市幼稚園新規採用教員研修会 ～西公会堂にて～

横浜市こども青少年局
保育・教育人材課 中山 光恵

採用2年目の3人の先生方の体験談から始まった研修会。ベテランの先生のクラスとの差や子どもが自分の話を聞いてくれないことなどで悩んでいました。一步踏み出そうと思えたきっかけは、一人で悩まず、周りの先輩や同僚に相談し、自分の保育を振り返ったことでした。遊んでいる様子をよく見たり、一緒に遊んだり、まわりの先生方の言葉のかけ方や援助の仕方を探ったり……。そうすることで、子どもの気持ちを理解することができ、子ども自身が納得して次の行動に移れるような言葉かけができるようになったということでした。



先輩方のお話を聞いて、1年目はみんな同じなのだと感じることができました。保育がうまく進まない時は、イメージトレーニングして、その子が好きなこと、うまくいったことなどを記録しておくといいのだと思いました。



がるって楽しいんだな。」という気持ちを芽生えさせる。そしてそれは、生涯にわたる学びの牽引力になる。子ども自身が遊びの中で学びとれる環境をどう構成するか、意図的、計画的な支援が欠かせない。そのために記録に残したり、今日のように、子どもの姿を見て同僚と語り合ったりして、子どもの気持ちを捉え続けることが大切だとのお話をいただきました。



保育を行う上で、枠にはめるのではなく、子どもの視点になって考えることが大切だと改めて学びました。



「お日様」の事例が印象に残りました。子どものしていることには意味があり、普段の保育の中で一人ひとりの子どもの気持ちを大切に受け止めていくことが重要であると感じました。



保育の仕方として、保育者が何かを示すだけでなく、子どもの気づきを拾い、そこから展開していくのもよいと考えを改めることができました。

8月3、4日にも、実技研修などが行われます。子どもたちの笑顔のために学び続ける1年目の先生たちです。

お知らせ

～保護者と共に～「育ちと学びをつなぐ」フォーラム
29年12月16日(土) 南公会堂

- ① 幼児教育・幼保小連携、アプローチ・スタートカリキュラムの重要性を子どもの姿で発信
- ② 幼保小連携推進地区のポスターセッションで地域に応じた多様な取組をポスターセッションで発信
- ③ 東京大学大学院教育学研究科教授
秋田 喜代美先生のご講演

対象者：幼稚園・保育園・認定こども園・小学校等の教育・保育関係者、保護者

申込方法：横浜市こども青少年局ホームページに後日掲載します。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/youji/>



「先輩の体験談」を受けての聖徳大学兼任講師の赤坂 榮先生のご講演は、写真から子どもの気持ちを読み取るワークショップを交えた参加型の楽しい時間となりました。

赤坂先生からは、肯定的な見方で子どもをみると、子どもっておもしろい、と感じることができる。先生との信頼関係は子どもの心の中に、「人とつな

平成 29 年度横浜市幼稚園大会開催！



▲永年勤続表彰を受ける教職員

平成 29 年度横浜市幼稚園大会が 6 月 28 日（水）に横浜市文化体育館で、横浜市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表など多数のご来賓の皆さまご臨席のもと開催された。

初めに鈴木浩副会長が壇上にて開会宣言を行った。続いて、横浜市幼稚園協会の木元茂協会長が挨拶に立ち「全国日本幼稚園連合会、神奈川県私立幼稚園連合会、横浜市幼稚園協会が数年前から署名活動を進めていた“幼児教育の無償化”について政府が早期に実現するための財源確保を閣議決定した。今後も幼児教育の重要性を訴え続けていく。また、子ども子育ての新制度が 3 年目に入ったが、これからも新制度について考え、議論を重ね、横浜市全ての子ども達と働く先生

方にとって良い制度に発展していくよう、協会がサポートしていきたい」と力強く話された。鈴木繁美父母の会連合会会長からも父母の会の活動を紹介すると共に、先生方への感謝のこもった挨拶がされた。

教職員の永年勤続表彰へと移り、勤続 20 年、15 年、10 年、5 年の順に登壇し、木元茂会長から各代表者に表彰状と記念品が贈られた。次に、勤続 40 年、35 年、30 年、25 年の長きに渡り幼児教育を支えてきた教職員表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢 373 名の教職員が、長年の幼児教育へ貢献した功績をたたえ表彰された。

さらに、横浜市長表彰として勤続 20 年、15 年の教職員に対して、代表者に表彰状と記念品が授与された。



▲木元茂会長挨拶



▲鈴木繁美父母の会連合会会長挨拶



▲石上裕子
父母の会連合会副会長による大会宣言



▲林文子横浜市長より祝辞



▲松本研横浜市会議長より祝辞



▲和田和佳子先生より謝辞

373 名が永年勤続表彰され大会宣言も採択された！

続いて、林文子横浜市長を始め、来賓の方々から永年勤続者への祝辞を頂いた。プログラムにも書かれた大会宣言案が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択された。後日、横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に永年勤続表彰を受けた教職員を代表して和田和佳子先生（京急幼稚園）が謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、羽田哲副会長が閉会の辞を述べて、本年度の横浜市幼稚園大会は閉幕した。



□ 永年勤続表彰数一覧

勤続年数	人数
5 年	2 1 2 名
1 0 年	9 1 名
1 5 年	3 7 名
2 0 年	2 0 名
2 5 年	6 名
3 0 年	6 名
3 5 年	1 名
4 0 年	0 名

平成 29 年度横浜市幼稚園大会 大会宣言

H29. 6. 28

私たち横浜市幼稚園協会加盟園の教職員と父母の会連合会の保護者 10 万余名は、『ひろがれ 笑顔の輪 かがやけ 子どもの未来 ここ横浜で』のテーマのもとに、平成 29 年度横浜市幼稚園大会を開催いたします。

私たちは、横浜の子どもたちが心身ともに健やかに成長するために、家庭教育の向上、安全な社会の構築を願っています。さらに、幼稚園教育の振興を図ると共に、お互いに手を携え生きる力を育むため、最善の生活環境を整えるべく努力し続けることを宣言します。

- 一、人としての教育の原点は家庭にあることを常に意識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心できる場であるよう努めます。
- 一、地域社会に参加することにより、人々との輪をひろげ、互に関心を持ってより安全な社会を目指し、子育てしやすい環境作りに努めます。
- 一、心豊かな子どもを育むため、私立幼稚園の教育を通して、「生命（いのち）の尊さ」「人と人の絆」「思いやりの心」を親子で学びあい、成長していくことに努めます。
- 一、現在（いま）の子どもたちの健やかな成長が、豊かな実りある未来を作る原動力になるとの確信のもと、横浜市内全ての私立幼稚園に子どもを通わせている保護者の代表として、上記のことを実現するために私立幼稚園就園奨励補助金制度と共に新制度における給付金にもご配慮いただき、どの子どもも十分な恩恵を受けることができることを切に願い、市長・市議会及び行政当局に訴え働きかけます。

幼稚園大会とは //////////////////////////////////

この横浜の「幼稚園大会」は、昭和 36 年度の第 1 回開催から優に半世紀を超える歴史を持っている伝統ある行事である。当初は「先生の日大会」という名称であった。当時はまだ物資のない頃で、先生たちは工夫しながら教材作りに励み、保育の充実をはかっていた。そうした先生たちの努力をたたえ、またこれに感謝し、さらに励ますことを目的として、「先生の日大会」は始まった。やがて保護者の方にもご参加いただき、名称も「幼稚園大会」に改めた。会場も横浜文化体育館とし、教職員・保護者 4,000 名が参加する、名実ともに横浜の幼稚園にふさわしい大会となった。「幼児期における教育の重要性を広く市当局や市民に訴えること」も趣旨の中に盛り込まれた。市長表彰も行われるようになった。これは、幼児の成長、発達に欠くことのできない集団教育を、横浜市はすべて私立幼稚園の教育に委ねていることから始められた。

幼稚園の役割 //////////////////////////////////

現在、横浜に限らず、子育てにおける幼稚園の果たす役割は非常に大きい。横浜型の預かり保育は朝 7 時半から夕方 6 時半まで子どもたちを預かり、働く保護者のサポートしている。その数は協会加盟園の 70% を占める 184 園である。また地域の子育て拠点として、相談相手のいない若いお母さんたちの悩みや疑問に答えたり、子育てのちょっとしたアドバイスをしたり、ノウハウを伝えたりしている。園庭の開放や学童保育の方面までカバーする場合もある。今やますます難しくなっている子育ての諸々の問題に正面から向き合っているのが幼稚園だと言える。

地域に密着し、それぞれの環境の中でよりよい子育ての道を模索する日々が現在も続いている。

父母の会の組織と活動

1年間を振り返って

平成 28 年度 横浜市幼稚園父母の会連合会
会長 鈴木 妙子

各幼稚園の園長先生をはじめ教職員の皆様方には、日頃より子ども達と真摯に向き合い、幼児教育の充実、向上にご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

私は横浜市幼稚園父母の会連合会の活動に携わること、家庭と幼稚園が互いの理解と信頼を深めることがいかに幼児教育にとって大切であり、どれだけ多くの方々の支援によって、子ども達が守られているということを改めて実感することができました。

父母の会連合会の活動として、横浜市会の各政党を訪問し、教育費負担軽減に対する補助金確保

等への要望活動、私立幼稚園就園奨励補助金制度等の堅持と拡充への陳情活動を行いました。歴代の父母の会が協会と共に行ってきた活動が少しずつではありますが実を結んでいるのだと思います。

また、幼児教育に対する父母自身の理解と意識を高めるため、父母セミナーを開催し、保護者の皆様とより多くの情報を共有できるよう活動して参りました。

平成 28 年度は新たな活動として、世界の子どもの笑顔を守るため、ザンビア共和国への靴の寄付についての広報活動にも積極的に取り組み、平成 29 年度の活動へと引き継ぎました。

数々の貴重な経験をさせていただき、ご指導賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も未来を担う子ども達が社会の中心で輝き続けられるよう、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年度父母の会事業報告

5/17 第 1 回 委員会

6/8 自由民主党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い

6/13 公明党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い

6/13 PTA 全国大会 (ホテルニューオータニ)
横浜協会より 70 名が参加

6/29 幼稚園大会 (横浜文化体育館)
参加人数：教職員・保護者 2,302 名

6/30 政令市私立幼稚園団体協議会 千葉大会参加
7/1

7/14 民進党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い

9/9 父母セミナー (横浜市西公会堂)
参加人数 459 名
「きれい社会の落とし穴」講師 藤田 紘一郎 先生



▲こども靴贈与式

11/8 県連父母の会連合会研修大会 (神奈川県立音楽堂)
横浜協会より 437 名が参加
「夢を追い続けて…」講師 内村 周子 氏

1/24 横浜市幼稚園協会 × そごう西武合同

「使用済みこども靴のアフリカ・ザンビア共和国への寄贈活動」こども靴贈与式

1/25 新年意見交換会 (ロイヤルホールヨコハマ)

参加人数 327 名 (父母の会より 7 名参加)
会員、父母の会、市長、国会議員、県・市会議員、市行政関係者等



▲新年意見交換会

2/23 常任委員会の開催

3/7 第 2 回委員会



▲委員会



▲幼稚園大会
鈴木父母の会会長 挨拶

平成 29 年度 横浜市幼稚園父母の会連合会 役員紹介



監 事 会 計
樽町白梅幼稚園 潮田幼稚園
ジリリ さおり 荒井 多恵子

副会長 会 長 副会長
平和幼稚園 まきが原幼稚園 森が丘幼稚園
金田 和代 鈴木 繁美 石上 裕子



▲ザンビアの子どもたちへ支援のためのポスター

第25回 父母セミナーのお知らせ

日時 平成 29 年 9 月 12 日 (火)
午前 10 時 20 分～12 時 10 分
(受付 10 時～)

会場 横浜西公会堂 (横浜市西センター)
横浜市西区岡野 1-6-41

テーマ マンガを描きながら子育てトーク
ー育つ喜び・育てる楽しさー

講 師：高野 優 先生

講師紹介：北海道生まれ。育児漫画家・絵本作家であり、大1・高2・中1の三姉妹の母。

マンガを描きながら話をする独特のスタイルで、育児に関する講演活動を行い、NHK 教育テレビ「土よう親時間」(2008～09 年)、「となりの子育て」(2009～11 年)の司会を務めた。「ハートネットテレビ」(2013 年)の虐待特集「完璧な子育てなんてない」に出演。2015 年 第 8 回ベストマザー賞 (文芸部門) を受賞。

(各園にお申込ください)

“ぼうさいえほん” を各園に配布

平成 29 年 5 月 30 日 (火) に「いのちをまもろう ぼうさいえほん」を発行し、横浜市幼稚園協会加盟園の園児 47,000 余名に配布してくださった株式会社協進印刷社長の江森克治様に木元茂幼稚園協会会長より感謝状が贈呈されました。



赤い花瓶

— 子どものデッサンを学びたい — 寺尾第二幼稚園 亀井 観一郎

花の絵

朝から年長組の部屋に机を数台並び、大ぶりの青磁色の花瓶に花をバサッと生けて、来た子どもから自由に絵の具やクレパスで描きます。私も担任の先生も一緒に子ども達と描きます。花は描く対象ですが、描くことに正確さは求めず、子ども達が花や花瓶から一人一人の「自由なイメージ」をもって描くことが重要です。中には花瓶を4つも描く子、外で雨が降っていると花のバックに雨を降らせる子もいます。極論すれば、花は描くきっかけであって、自由に描いて欲しいのです。また、机の横では積木で基地をつくる子、紙製作をやる子など自由に遊んでおり、リラックスした雰囲気の中で描きます。今日のプログラムのメインディッシュは一応、花の絵の活動ですが、オードブル（他の活動）だけで済ます子がいても良いのです。



▲赤い花瓶の絵

翌日、ある男の子は前日描いた、緑色系のクレパスで緻密に模様を描いた花瓶の絵の上に、強烈な濃い赤の絵の具で、ぐいぐいとキッパリと花瓶を塗り込め、私はその潔さに深く感じ入りました。ハッとした私は、「子どもにとって前日の絵は既に終わり」、「過去は存在しない白紙にすることの豊かさ」に、その「いま」のみを生きる子どもの新しいものを求める精神の激しさを感じました。その後「赤い花瓶」の絵を見た時に、私はデビュー当時フォーヴィスム（野獣派）と言われたアンリ・マティスの有名な美しい「赤」を想起しました。キュビズムのピカソやフォーヴィスムのマティス、ドランは、近代絵画の新しい世界の扉を20世紀初頭に切り開きました。彼等は行き詰まっていた西欧絵画を、アフリカの民族芸術、日本の浮世絵などのジャポニスム、子どもの造形芸術などをヨーロッパの芸術の

世界に取り込み前進させました。アンドレ・ドランは「私は子どものデッサンを学びたい！真実は間違いなくそこにある」（注1）と言っています。

輝く白い立体

だいぶ以前に、ある女の子が園長室に来て、突然白い紙を手の中でくしゃっと丸めて、机の上に置き、「動くよ！」と指差しながら叫んだ瞬間、紙は白く輝き燦めいて、ゆっくりと動き出す芸術的オブジェとなり、周囲の空間から切り離されて存在したのでした。子どもの内的な力は、物（白い紙）を新たな芸術的形象に一瞬のうちに変容させ異なる時空に移行させました。文学や音楽、造形芸術家の仕事は、まさにこの「世界の変容」を言葉（言葉）、絵画や彫刻によって実現することです！その表現力を推進するのは、言葉の真の意味の「幼児性」であります。

このような輝く時は誰にでも起こり得るので、例えば映画館を出た瞬間、街が新鮮な色彩を帯びて見えたり、突然降った雪がよく知る街を見知らぬ都市のように変えて見る時間です。その時、あなたの内なる子どもは単調な大人の生活世界の中から突然浮上して世界を美しく変えるのです。幼稚園の遊びの世界には、このような「日々の小さな祭り」が浮上しては消え、キラキラしながら子ども達の「小さな宴」となって表れます。

米国の作家ヘミングウェイのエッセイに「移動祝祭日」（A moveable feast）という美しい小品があります。20世紀を初頭のパリが最も輝きを放っていた時代を、晩年に回想したもので、「パリ再び—Paris revisited」とも言うべきものです。私は幼稚園の日々も小さな「移動祝祭日」だと思っていて、尚この時代は日本でも、女性と子どもの文化が花開き、子どもの自主性や自由を大切にした「新教育運動」が多くの私立学校の教育や幼児教育の世界で花開き、現在の日本の幼稚園教育の根本的精神が新たに誕生した時でもあります。

（注1）「プリミティヴィスムとプリミティヴィズム」（大久保恭子著・理想社）

Congratulation

春の叙勲 おめでとうございます

瑞宝双光章

渡邊 眞一 先生

学校法人初音丘学園・初音丘幼稚園
理事長・園長



※瑞宝双光章：国及び公共の公務等に長年にわたり従事し、功績を挙げられた方に対して、国家が表彰する勲章。



編集後記

今年も新しいお子さんをお受けして29年度が始まりました。毎年驚きますが、子どもたちの順応性や吸収力の速さと大きさには目を見張ります。泣いていたお子さんも少しすると自分の居場所を上手に覚え、みんなで遊べるようになります。横浜市幼稚園協会加盟の各園は、お子さんが心身ともに元気に育つよう力を合わせています。皆さんのお力になれるようこれからも努力していきます。この協会報もお手伝いの一助になれば幸いです。

広報部長 浅沼郁子